



# 平和な世界を子どもたちに 組合員さんの「平和のメッセージ」



6月2回のにじのわで平和のメッセージを募ったところ、多くの組合員さんからお寄せいただきました。ご自身のつらい体験や、身近な人から伝え聞いたお話など、平和への強い願いを届けてくださったみなさま、ありがとうございました。

## 平和と戦争は紙一重

毎日、現代の朝に夕にニュースで見る戦争の現実、街は破壊され、人々は逃げまどい見るに堪えない状況を私たちは目の当たりにしています。今の日本は平和に暮らしていますが平和と戦争は紙一重だと痛感しています。  
子育て中に「先に手を出した方が負け」とよく言ったことがあります。意味をしっかりと教え世界中の合言葉、共通語として浸透させてほしいと思います。法律も役に立たないのだから。(宮崎市 二階堂貴恵子さん)

## 平和への想い 書き続けたい

今年もまた、敗戦の日がやってまいりました。いつまである命かと案じながらせめてこの欄だけは書き続けたいと思っております。少なくとももう戦争遺児・体験者は戦後80年つまり80歳以上となり身心の衰えは防ぎようもないのです。語り部も慰霊碑等の清掃・供花もままなりません。次世代へのバトンタッチは急がねばなりません。世界のあちこちでは未だ遺児や飢渴に苦しむ幼子・若者が増え続けています。防衛費も各国々で増額、何をもって地球の壊滅を促進せねばならぬのか、我々人間は平和・平等を望んでいるはずなのにと思いつつ書いてしまうのです。(国富町 宮田佐智子さん)

## 平等に暮らせる世界を願う

戦争は、聴いたりみたりするばかりですが、人と人が争うことは知らない。笑顔と愛があれば平等に暮らせる世界を願う。(門川町 ASHMOREさん)

## 戦争のニュースで心を痛めています

最近、一番記憶に新しいロシアの戦争をニュースで見て心を痛めています。一番国で偉い人の権力・武力などでたくさんの罪もない人々の命がと考慮するとあるまじき攻撃だと思えます。1つの国と1つの国が戦争になった場合、無関係の国の物価が上昇しますが、それでは泣きつ面に蜂だと思えます。いかに世界が相互扶助の理念などでうまく皆が幸せになれるかを考えさせられる毎日です。(日南市 AKI²さん)

## 硫黄島の戦いで亡くなられています

看護師をしています。担当の女性の患者さん(92歳)のお父様は硫黄島の戦いで38歳にして亡くなられています。一番下のご兄弟はほとんどお父様のお顔を覚えていないとか。  
白木の箱には石コロしか入っておらず、その後の生活はとても大変だったと。80年を経て、その方とは戦死されたお父様が遺してくださったから出会うことができたんですよ!と空に向かってお礼を言いたくなる時があります。今もなお、地下で眠っているかも知れないお父様に…。(延岡市 ぼっちゃんさん)  
(※右ページに関連する本を紹介していただきました。)

## 世界の子供たちのために

戦争で得るものは何もありません。今から生きていく世界の子供たちのことを考えると胸が痛くなります。  
私は数年前から“日本ユニセフ協会”に微々たるものですが募金しています。自分があと何年で死ぬんだとわかっていたらもっと募金したいのですが、年金だけの生活では不安があります。(宮崎市 江並裕子さん)

## 相手を尊重し言葉をもって解決する

戦争、未来永劫に渡りあつてはなりません。私の亡き父はその時の話はしたくないと何も話しませんでした。どれ程つらいことがあつたのかを察するところです。今は一国主義、そして強いものが決定するのに誰もNOと言えません。平和と言っても一人ひとりが相手の意見に耳を傾け尊重し言葉をもって解決する。これに尽きるのではないかと思います。子どもたちにはそういう教育が必要ではないでしょうか。(延岡市 本井澄子さん)

## 80年前の怖さ 忘れられない

第2次世界大戦で延岡が空襲にあつたのは、私が国民学校1年生の時だった。その時の犠牲者は300人を超えたという。延岡市内に空襲警報が鳴り響いたのは、1945年(昭和20年)6月29日、午前1時15分くらいだったという。米軍の爆撃機B29による焼夷弾828トンの集中攻撃を2時間に渡って受けた。  
街は瞬く間に火の海となり、市街地域の大半2平方キロメートルが被災、延岡市役所・商店街・旧制延岡中など、主な施設も焼け、市役所では戸籍簿など大部分の書類が焼失した。即死の130人を含む318人が死亡したという。  
同年7月1日の調査で、同市内の約26%にあたる3765戸が被災したと確認。県内最大の空襲を受けた背景にはダイナマイトや薬品製造など軍需産業が盛んだったことがある。旭化成にあつたのだらう。  
夢を見ていた夜中に親から突然起こされて耳をつんざく様な空襲警報の音に大変なことが起こつたと認知、枕元にあつた防空頭巾を被り、父母の後をついて必死で、1キロほど先の山の麓に掘ってある防空壕へ走った。爆弾で道路に穴が開いていてその横を通る時、何かに当たって転んだ。転んだ原因は女性の体だった。  
まだ生きていたのだらう。私の足首を強い力で掴んだのだ。悲鳴を上げた私の所に父が戻ってきて、その女性の指を1本ずつ解いてはなしてくれた。私は死にかけたその女性が自分の名前を言って、ここに死んでいると家族に伝えてほしかったのではと小さいながらもその人のことがかわいそうでたまりませんでした。80年前のその怖さは死ぬまで忘れられないだらう。  
また、B29が雲の中を飛んでいる低い音も。夏に子どもたちで川で泳いでいた時だった。誰かが「敵機来襲」と叫んだ。子どもを狙って低空飛行してきた。私は足が速いので、橋の下に隠れたが、タカちゃんに弾があたり、川は真っ赤になった。その時、水柱が何本も立った。  
魔法使いのような高い鼻のアメリカ兵と水柱と幼友達の死を思い出すと今でも怖い。焼け野原になった街を見て、子どもながらに戦争って怖いものだった。でもわが家は誰も命を奪われなかった。明日から落ち着いて生活ができる。B29はもう来ない。これが一番うれしかったように思う。(宮崎市 堀順子さん)

## 「平和の活動支援募金」のご協力をお願いします

ご協力いただいた募金は、「沖縄戦跡・基地めぐり」・「ピースアクション in ヒロシマ・ナガサキ」などの活動資金の一部・「宮崎県原爆被害者の会」への寄付として大切にに使わせていただきます。

募金期間：8月4回(521号)まで

募金方法：注文番号 **[626]** 番で1口100円から募金ができます。

お店のサービスカウンターにも8月31日(日曜)まで募金箱を設置しています。



ピースアクション in オキナワの辺野古見学

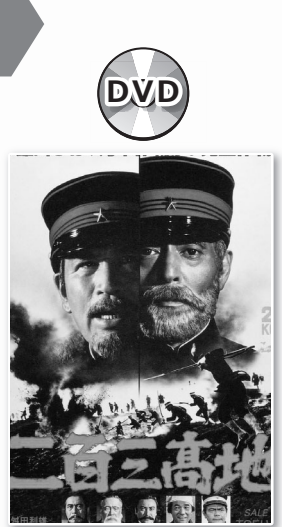
## 私の心に残った平和の本・映画・歌

### 心に残った 映画

#### 「二百三高地」

監督 増田利雄  
出演 仲代達也／あおい輝彦／夏目雅子

私は実際の戦争体験は知りません。しかし、14～5歳ごろ友人と2人で「二百三高地」という仲代達也さんが演じられた日露戦争の映画を観に行き、目を伏せたりするシーンや涙が止まらないシーンに記憶があります。  
戦争とは最愛の人をなくす戦いだと思います。生憎かも知れませんが、平和な世界であつてほしいです。(日南市 AKI²さん)



#### 「禁じられた遊び」

監督 ルネ・クレマン  
出演 ブリジッド・フォッセー

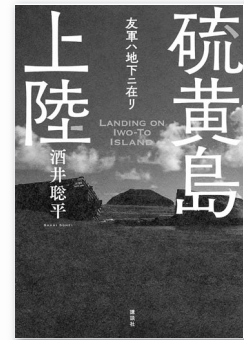
幼稚園か小学校低学年の時、家族と一緒に映画館で観たのを鮮烈に覚えています。男の子と女の子の会話など涙が止まりませんでした。(宮崎市 江並裕子さん)

### 心に残った 本

#### 「硫黄島上陸 友軍ハ地下ニアリ」

著者 酒井聡平 / 講談社

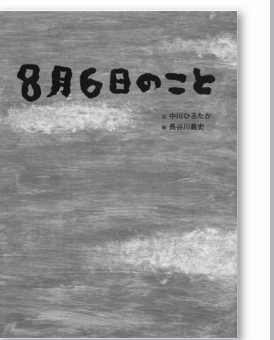
平和のメッセージに記した理由で、とても興味があり、「お父さん!どこですか!?!」と思いながら読み進めました。(延岡市 ぼっちゃんさん)



#### 「8月6日のこと」

文 中川ひろたか  
絵 長谷川義史／河出書房新社

広島で兵隊として働くお兄さんの所へ差し入れを持って行っていたというお母さんのことを描いた絵本です。穏やかな瀬戸内海の青色と原爆の落ちたヒロシマの真っ黒な町が心に響きました。(宮崎市 M・Hさん)



### 心に残った 歌

#### 「平和の琉歌」

CDアルバム「海のYeah!!」  
作詞・作曲 桑田佳祐 サザンオールスターズ 収録

沖縄戦のことを歌っています。未だ癒えない沖縄の過去を少し寂しげな沖縄のリズムで語り継いでいるようです。(宮崎市 O・Hさん)



沖縄

こちらで紹介した本やDVDのお問い合わせ・ご注文は  
コープみやざきBOOK・CD・DVDセンターへ 電話 **0985-28-6611**



みなさまからお寄せいただいた平和のメッセージは、コープみやざきのホームページ「組合員さんの声」でもご紹介しています。

